



4月23日、第7回総会が開催された。運営委員の長橋さんが司会し、福士共同代表の開会あいさつで始まった。

第1部では、超党派の「原発ゼロの会」で活躍している自民党の秋本真利衆議院議員に「国のエネルギー政策について」と題して講演していただいた。講演は、すでに世界の流れとして原発を見限り、再生可能エネルギーへとシフトしており、産業界にとっても、その流れに乗ることが必要であることが実証的なデータや資料で

示された。自民党現職国会議員が反原発を理論的に語り頑張っていることに大いに励まされた。

第2部は議長を選出し（私が務めました）、議案に基づき連盟活動の年間総括が提起され、再稼働に反対する現地自治体への陳情・請願運動の成果が述べられた。続いて鹿児島市議会議員・野口英一郎氏から川内原発に対する闘いの現地報告を受け、質疑後に会計・監査報告も含め議案が承認された。活動方針では、再稼働に対する現地運動と結んだ30キロ圏陳情・請願運動、第5回福島を忘れないシンポジウムの成功、避難者に対する支援活動、とりわけ関西電力の原発再稼働に対する反対運動を強化するために関西における連盟の活動・組織拡大方針、口頭で議員連盟の行動力アップが付け加えられた。予算案、人事案提案の後、小松久子都議会議員のご挨拶を挟み、柳田事務局長のまとめを受け、各議案が承認された。武笠共同代表が閉会挨拶し総会は幕を閉じた。

『行ってよかった』…第5回福島シンポに寄せて

藤原丸子・愛媛県八幡浜市

…現地の人たちの行動に、心から応援したい。そして日々の平穏を破る原発の事故の不安さを思う。行って良かったという帰りのバスの中の声、そう、そうよね、いっぱい学んだよねと心につぶやきながら、1泊2日は終わった。元気でいたら又来よう。仲間を連れて、と心に誓った。暑さはまだまだ続く。

現地要請行動へのカンパのお願い

15基の原発が集中する若狭湾で、高浜原発に続き大飯原発が再稼働に向かっていきます。関西ブロックを中心に、立地自治体など議員や市民との連携を強化しています。ご協力をよろしくお願いします。

郵便振替 00110-7-449067

今後のスケジュール・

★9月11日(月)夕方
経産省包囲ヒューマンチェーン

★9月18日(月・祝日)午後2時
とめよう原発1000万人アクション
代々木公園

★10月15(日) 関西電力本社包囲行動

★10月1日(日)午後3時
横須賀原子力空母抗議行動
ヴェルニー公園(京急本線 汐入駅 徒歩3分)

★10月21日(土)・22日(日)午後2時
伊方原発再々稼働反対関電高松本店行動
★10月23(月)午前
伊方原発30キロ圏自治体請願行動

原発やめようニュース 反原発自治体議員・市民連盟

NO. 26 2017年9月

反原発自治体議員・市民連盟

共同代表 佐藤英行(北海道岩内町議会議員)
野口英一郎(鹿児島市議会議員)
福士敬子(元東京都議会議員)
武笠紀子(元千葉県松戸市議会議員)

〒168-0072
東京都杉並区高井戸東3-36-14-301
Tel/FAX 03-5936-0311
http://nonukesjapan.org/
郵便振替 00110-7-449067

関西ブロック発足！若狭の原発再稼働を止めるために連携を強めよう



大飯原発3・4号機再稼働12月以降に延期

8月21日、おおい町と30キロ圏8自治体に、議員267名の連名で請願（陳情）を行い、マスコミも取り上げました。7月予定の再稼働前の工事は、工事計画認可申請の補正書に重大な誤りが指摘されていながら、規制委員会は8月25日補正書を認可。関電は大飯3号機を来年1月、4号機を3月に再稼働すると発表しました。

これに対し8月31日、福井県知事と県議会に9名の議員で要請書と請願書を提出しました。

関電は2004年8月美浜原発3号機で二次系蒸気配管損傷による蒸気噴出で11人の死傷者を出し、今年は高浜2号機でクレーン倒壊による原発建屋を損傷する事故を起こしました。関電の安全軽視の姿勢は見逃せません。

若狭湾の原発再稼働が今後の動向を左右

高浜3・4号機の再稼働により、新規規制基準のもとでの運転再開は川内2号機、伊方3号機に続き5基目になりました。さらに大飯原発3・

4号機など計7基が規制委員会の審査に合格し、その中には40年を超える高浜1・2号機も含まれています。原発推進側のねらい通りにいけば、今後2～3年以内に若狭の原発は次々と稼働される危機にあります。

原発には「加圧水型」と「沸騰水型」の2種類があり、新規規制基準で合格したのはすべて加圧水型。福島第1原発などの沸騰水型は、審査のハードルが高いうえ、どこも敷地内に断層が通るなど厳しい状況。そのため、当面若狭湾の加圧水型原発の再稼働以外にないのが実情です。

ドイツでは2022年末までに全17基の稼働停止を決定、スイスやベルギー、台湾、韓国でも脱原発に踏み切るなど、世界的には脱原発が主流に。高浜原発立地でも、地元の音海地区自治会で脱原発宣言が出され、脱原発が民意の多数を占めつつあります。

7月23日 関西ブロックが発足しました

今秋から来年にかけて、若狭湾にある原発再稼働をめぐる攻防が、今後の原発の是非を左右する天王山となりました。これに備え7月23日、関西の自治体議員・市民が70名集い、「反原発自治体議員・市民連盟・関西ブロック」を発足。記念講演に、山崎隆敏元越前市議をお招きし、「なぜ『原発で若狭の振興』が失敗したのか」を詳細なデータで示していただきました。

10月15日の関電本店抗議、12月3日のおおい町での集会はじめ、全国の力を集中し、大飯原発3・4号機の再稼働を阻み、原発を止める展望を若狭で開きましょう。



茨城県知事のゆくえ

茨城県知事選と東海村長選は8月27日が投票日だった。村長選は再稼働の判断を明言しない現職が無投票当選。県知事選は3名が立った。

鶴田真子美候補（市民団体・6野党推薦）は東海第2の再稼働を認めないと主張。現職橋本昌候補は突然「無条件で再稼働は認めない」と言い出した。大井川和彦候補は推薦する自民公明の傀儡であり再稼働容認と見られる。選挙結果は、鶴田氏が122,013票、橋本氏が427,743票、大井川氏497,361票と、厳しいものとなった。

安全協定の見直し

東海第2の再稼働はとくに「原子力安全協定の見直し」と「避難計画の策定」の2点にかかっているかと思う。

安全協定では、東海村と茨城県の承認が再稼働の条件となっている。周辺6市村(日立・那珂・

常陸太田・ひたちなか・水戸の各市と東海村)の首長で構成する原子力所在地域首長懇談会は再稼働判断の権限拡大を何度も要求しているが、日本原電は応じない。6市村の議会はすべて、安全協定見直しの請願を不採択とした。

避難計画は作れるか

30キロ圏内に約96万人がいる。スムーズに避難などできるわけがない。避難バスの確保も不可能、交通渋滞も予測不可能。こんな中で、自治体職員は避難計画を作らされている。国家的パワハラである。中途半端な内容のまま「ひとまず策定として今後修正していく」といった逃げ道を認めないことが肝心である。

本質からのズレ

本来、避難計画や安全協定などを問題視する以前に、そもそも原発は人間の手に余る危険なものだから動かしてはダメだとすべきなのだろうが、細部や各論を問題にしているうちに、そもそも論は後退しがちになる。核のゴミの処理だってもっと問題視していい。だが推進派は黙ったまま問題をずらし、反対派はそれに引っ張られる感がある。また住民は「事故は起きないのでは」「安全に避難できれば一安心」と、そこで思考停止の人も多いようだ。課題は、住民の関心の高さとか、首長に対する説得、あたりにあると思う。



東海第2原発の動向

東海、東海第2原発の設備概要	東海		東海第2
	電気出力 (万kw)	建設着工	
①日本原子力発電 東海、東海第2発電所	16.6	1960年1月	110
②核物質管理センター 東海保障措置センター			
③東京大学大学院 工学系研究科原子力専攻			
④日本原子力研究開発機構 原子力科学研究所			
⑤大強度陽子加速器施設 (J-PARC)			
⑥同機構 核燃料サイクル工学研究所			
⑦原子燃料工業 東海事業所			
⑧積水メディカル 薬物動態研究所			
⑨三菱原子燃料			
⑩ニュークリア・デベロップメント			
⑪住友金属鉱山 エネルギー・触媒・建材事業部技術センター			
⑫ジェー・シー・オー 東海事業所			
⑬日本放射サービス 東海センター			
営業開始	1966年7月	78年11月	
(建設費 億円)	490	2170	
運状転況	廃炉中	停止中	

- 東海第2『延長申請したい』日本原子力発電社長…11月までに社で判断と報道される
- 東海第2は来年40年。法律で原発は寿命40年と決められている
- 本来なら、東海第2は廃炉となるべき
- しかし抜け道があり、延長申請すれば、あと20年延長できることに



現地見学会は大型バス2台とも満席でした。見学コースは、ほぼ昨年通り。避難解除となった飯舘村と浪江町を見学し、国道6号線を南下。未だ放射能高線量の双葉町・大熊町・富岡町、そして楡葉町、第2原発の広野町をバスで走り抜けました。今年も、参加者の持ってきた放射線測定器が、ピーピーと車内に鳴り響きました。立ち入り禁止の高線量地域には、不審者(車)が入らないないように警察官が立っていますが、マスクをしている人は少なく心配になりました。

最後にいわき市四ツ倉道の駅でホッと一息。お土産を買ったり、軽食をとりました。帰りの車中で、参加者から感想を伺いました。参加してよかったというご意見が多くありました。(以下、まとめたものをご紹介します)

- 福島に来なければ分からなかったことがたくさんあった。
- 聞いたこと見たことを、自分の言葉で話していきたい。
- 福島は一年ごとに変化している。避難解除された村や町に、建物や堤防や焼却炉が続々と造られていた。
- 除染物を詰めたフレコンバッグの山が衝撃的だった。
- ガイドの、渡辺計飯舘村議、小幡ますみ大熊町議のお話良かった。ユーモアを交えながらも、厳しい現状が良く分かった。
- 福島を忘れないことが大切。
- 今後もこの企画を続けてほしい・・・など。

第5回シンポジウムには、福島現地から議員23名と市民48名、県外からは茨城、千葉、首都圏、遠くは高知県など全177名が参加。記念講演の白石草さんに、子どもの命と健康を守る視点でチェルノブイリと福島の違いを学びました。その後、「原発立地の自治体議員・市民と手を結び、原発のない社会を実現するために力を尽くすことを誓い」「東京電力の責任を徹底的に追求し、福島の人々が希望ある健康な生活を取り戻すことができるように力を合わせ、国や自治体への働きかけをさらに強める」宣言文を採択しました。



【上】フレコンバックから雑草が
【中】飯舘村役場前の植え込みの
放射線量測定。値は1.00 μ Sv
【下】浪江町請戸地区は、防潮堤
工事によって、海の見えない
地域に変わっています

